



「声」の欄・投稿規定

★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接この雑誌に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。

★この欄にはまた皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。

★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。

★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-3575-4748）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にても受け付けております。

★誌上での匿名は随意ですが、原稿には住所・氏名を明記していただきます。

皮膚科が危ない

皮膚病診療のeditorial(2015年11月号)の「皮膚科が危ない」を読んで、21年前『皮膚科の臨床』の巻頭言(皮膚科の臨床 36:1801, 1994)に「皮膚科はチョロイ科か」の題で書いた拙文を思い出しました。

当時よりもさらに皮膚科の将来の心配が大きくなっているようで心が痛い！です。

安田先生＝西山先生→井上勝平先生→出盛となげて、安田＝西山先生の孫弟子と勝手に自称し、抗うつ剤を内服しながらも、皮膚科をチョロイ科にしないよう頑張っているつもりですが、多勢に無勢なのでしょうか？

大学を60歳で退職した後、宮崎県での「皮膚の

日」の講演は14回におよんでいます。講演テーマは、常に全身疾患に関係ある皮膚疾患または皮膚疾患と関係ある全身疾患を選び、皮膚科こそ全身疾患をみているジェネシャリスト(generalist+specialist)なのだと宣伝しているつもりです。因みに、青木皮膚科(宮崎市)の2015年度手術件数は500例を超えています。

拙文を書いた当時、すぐに多くの大学教授から賛同の手紙をいただき、うれしく思っていたのですが、皮膚科のステータスは上がっていなかったのでしょうか。元気で、他科から信頼される皮膚科になるよう頑張りましょう。

出盛 允啓

(宮崎市・青木皮膚科)

皮膚病診療ホームページのご案内

最新号の案内、本誌過去論文(2000年, Vol.22以降)の検索、「声」の欄への投稿など盛りだくさんのコンテンツを用意しています。IDやパスワードなどは不要です。アクセスをお待ちしております。

※論文の目次検索は、「トップページ」→「目次一覧／特集一覧」→左上の「目次検索」。
論文タイトル、著者・共著者、キーワードからの検索が可能です。

<http://www.hifubyoh-shinryoh.com>

皮膚病診療

皮膚病のための皮膚病総合雑誌